

第4回琉大未来共創フォーラム  
首里城再興学術ネットワークシンポジウム 2020  
プログラム

日 時： 2020年10月10日（土）13：30～16：00

会 場： 沖縄県立博物館・美術館3階講堂

総合司会： 小島 肇（琉球大学地域共創企画室特命准教授）

東 香純（琉球大学企画調整役付専門職員）

来場参加者の皆さまを対象に、本日のシンポジウム講演者や琉球大学の取組  
に対するご質問を受け付けいたします。

第3部開始5分前に締め切りますので、それまでに送信ください。

こちらのフォームからお送りください。



読み取れない場合はこちら⇒<https://onl.tw/vS6DH7V>

13:15～13:30 受付

13:30 開会

挨拶 国立大学法人琉球大学学長 西田 睦

13:35～14:35 【第1部】基調講演 「首里城 –平成の復元、令和の再興–」

首里城復元に向けた技術検討委員会の委員長を務める高良氏と首里城復興基本計画  
に関する有識者懇談会の座長を務める下地氏から、平成の復元の意義、令和の再興の方  
向性について伺う。

「首里城復元のコンセプト」

高良 倉吉（琉球大学名誉教授）

【演者紹介】沖縄史料編集所専門員、沖縄県立博物館主査、浦添市立図書館長を経て、  
琉球大学法文学部教授。博士（文学、九州大学）。定年退職後の2013年4月から2014

年12月まで沖縄県副知事を務めた。琉球史の専門家として首里城復元事業に委員として参加。首里城焼失後に沖縄総合事務局に設置された「首里城復元に向けた技術検討委員会」の委員長として首里城復元に尽力。

【講演概要】琉球王国の象徴的存在であった首里城を、様々な分野の多数の専門家や技術者が参画して甦えらせたのが前回の復元（平成の復元）であった。30数年の歳月をかけて完成したにもかかわらず、その主要施設は火災により焼失した。前回の蓄積をふまえ、新知見による修正を加えつつ新たな復元（令和の復元）が始まっている。この2つの復元事業に関与する者として、特に琉球史の立場から復元の主なコンセプトについて説明したい。

### 「首里城復興に向けての取り組みと課題」

下地 芳郎（一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー会長）

【演者紹介】沖縄県観光政策統括監を経て2013年3月に県を退職、琉球大学教授として観光産業科学部長と大学院観光科学研究科長を経て2019年6月から現職。主著「沖縄観光進化論」。首里城焼失後に沖縄県に設置された「首里城復興基本方針に関する有識者懇談会」の会長として沖縄県が進める「首里城復興基本方針」の取りまとめに尽力。

【講演概要】首里城正殿等の焼損から1年近く経過し、首里城復興に向けての取り組みが本格化してきた。首里城復興基本方針では、「正殿等の早期復元と復興過程の公開」や「新・首里杜構想による歴史まちづくりの推進など9項目を定めている。現在、復興に向けた具体的な施策や工程表を盛り込んだ基本計画の策定に向けて有識者懇談会で議論を進めている。首里城の復興プロセスを通して、沖縄の持つ「文化力」を世界に発信することが重要である。

14:35～14:45 休憩

### 14:45～15:30 【第2部】首里城再興学術研究プロジェクト

琉球大学学内公募により選定された4つの研究プロジェクトについて、担当する研究者から研究概要を紹介する。

### 「複層的な首里歴史まちづくり ― 城下町首里の都市形成史 ― 」

小野 尋子（琉球大学准教授）

【演者紹介】筑波大学社会工学研究科で博士号（社会工学）を取得。技術士（建設部門・都市及び地方計画）。都市計画、ランドスケープ、土地利用計画などを専門とする。現在、琉球大学工学部工学科建築工学コース准教授。

【講演概要】首里城下町は、本土の城下町とは異なるユニークさを有している。そこで、古地図など歴史的な資料をベースに、首里の歴史的市街地がどのように変遷し現在のまちへと至ったのかを調査研究することで、首里城下町の仕組みや成り立ちなどについて解明する。

#### 「複層的な首里歴史まちづくり – 歴史資源の多元性と新たな地図化 –」

越智 正樹（琉球大学教授）

【演者紹介】京都大学大学院農学研究科で博士号（農学）を取得。観光社会学、地域社会学、農村社会学を専門とする。現在、琉球大学 国際地域創造学部観光地域デザインプログラム 教授。

【講演概要】首里城を中心とした首里のまちの再興に向けて、その歴史資源の活用のあり方の検討に資するため、地域の記憶に残る私的な歴史を住民調査に基づいて明らかにし、それと公的な歴史とを合わせた新たな「地図」ツールを作成して、そのモニター調査を通じて人々がどのようなものを「歴史資源」として志向しているかを分析する。

#### 「非破壊的な理化学分析による首里城瓦の製作技術の変遷の解明」

平良 渉（琉球大学ポスドク研究員）

【演者紹介】琉球大学理工学研究科で博士号（理学）を取得。分子生理学、放射線生物学などを専門とする。現在、琉球大学研究基盤センターポスドク研究員。

【講演概要】首里城瓦の製造技術の歴史の変遷を明らかにするため、琉球大学博物館（風樹館）に収蔵されている 14～18 世紀の首里城古瓦と昨年火災で焼け残った瓦（破損瓦）を用いて非破壊的な理化学分析を行う。本研究は沖縄県工業技術センターとの共同研究として実施し、同センター所有の最新型産業用 X 線 CT スキャナーにより、瓦の断面や内部構造も解析する。

#### 「首里城正殿再建に使用する県産木材の基準強度評価プロジェクト」

カストロ ホワン ホセ（琉球大学教授）

【演者紹介】筑波大学工学研究科で博士号（構造工学）を取得。防災工学、建築構造・材料、構造工学・地震工学・風土工学などを専門とする。現在、琉球大学工学部工学科建築学コース教授（島嶼防災研究センター長）。

【講演概要】県産木材のウラジロガシやイヌマキは、市場に出回ることも少ないため基準強度が定まっていないのが現状である。そこで、県産木材の首里城正殿使用に資するため、実際の復元工事に使用する際に必要となる木材の基準強度を明らかにする。

15:30～15:40 休憩

15:40～15:55 【第3部】総合討論 「学術ネットワークの拡大に向けて」

ファシリテーター：木暮 一啓（琉球大学企画・研究担当理事・副学長）

首里城の焼失によって再確認された沖縄の歴史と文化、ステークホルダーと研究者の新たな繋がり、再興に向けた各界の動きなどを踏まえて学術ネットワークとしての「繋がり」と「広がり」について会場と登壇者との間で意見交換する。

16:00 閉会

◆琉大未来共創フォーラムに関するアンケートご協力をお願い◆

「第4回 琉大未来共創フォーラム-首里城再興学術ネットワークシンポジウム 2020-」にお越しいただきまして、誠にありがとうございました。本日のフォーラムや今後のフォーラムについて、皆様の率直なご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

ご回答はこちらからよろしく願いいたします。



読み取れない場合はこちら⇒ <https://bit.ly/3ngluZp>

お寄せいただいたご意見・ご感想は、今後の本学の取り組みの参考とさせていただきます。

**首里城再興学術ネットワークについて**  
**-琉球大学は、学術的な立場から首里城の再興に貢献します-**

“琉球大学は 1950 年、沖縄戦により灰燼に帰した首里城の跡地に創設された”

2007（平成 19）年 5 月 22 日に制定された琉球大学憲章前文は、この一文から始まります。琉球大学（以下、本学とする）は、開学から前回の復元事業の本格化に伴い現キャンパスへ移転するまでの約 30 年間、首里城跡地で教育研究活動を行ってきました。

2019 年 10 月 31 日の火災による首里城の焼失は、首里を発祥の地とする本学にとっても大変悲痛な出来事であり、国内外の多くの皆さまと悲しみや再興に向けた熱意が絢交ぜになった「想い」を共有しました。

火災当日、本学は学長のメッセージとして、首里城再建への協力を表明するとともに、学術面からの貢献を目指し、12 月 22 日に「首里城再興緊急学術シンポジウム」を開催し、首里城再興に関する学術ネットワークを構築することが提案されました。

これを受け、本学の木暮一啓理事・副学長から 2020 年 4 月に首里城再興学術ネットワーク（仮称）の設立について学長に答申し、本答申に基づき本学研究企画室に事務局を立ち上げ、下記の基本方針のもと活動を行っています。

**1. 組織の枠を超え首里城再興に学術面から貢献するプラットフォームを構築します**

首里城再興に向けた課題は、首里城の復元はもとより、琉球の歴史・文化、観光、伝統技術、まちづくり、教育など多岐にわたっています。

これらの研究・教育に対する期待に応えるためには、県内の大学、研究機関を中心に広範な学際的なネットワークを構築する必要があります。

琉球大学はそのハブとなり首里城再興に学術面から貢献するネットワークの拡充に努めてゆきます。

**2. 首里城再興に貢献する研究と教育を振興します**

琉球大学では、2020 年度から「首里城再興学術研究プロジェクト」を立ち上げ、学内公募により 4 つの研究プロジェクトがスタートしました。また、本学の学生や県民の皆様に首里城及び沖縄の歴史・文化に関する講座の開講も検討しております。

これらの研究・教育活動が首里城再興に貢献することを目指してゆきます。

**3. ワークショップ・シンポジウムを重ねることでネットワークを拡充します**

学術ネットワークは研究者のみではなく、関係機関とも連携し、学生、県民、地域社会との繋がりの中でネットワークを広げてゆく必要があります。

そこで、シンポジウムやワークショップの開催、ポータルサイトやメールマガジンによる

情報発信により研究・教育活動と社会を繋ぎ、ネットワークを広げてゆきます。

**メールマガジン、SNS (Twitter、Facebook) で情報を発信しています。**

→学術ネットワークでは、首里城に関連する学内外の情報をお届けするツールとしてメールマガジン（月に2～3回程度）を配信し、SNS（TwitterとFacebook）を運用しています。

発信する情報は、主に、肩ひじを張らずに読んでいただける豆知識的な内容や、その時々ニュースやイベント情報をピックアップしたものです。もちろん「首里城再興学術研究プロジェクト」の進捗もお届けしています。

学術に耽る前の準備運動や、難しいお話の合間の箸休めとして、気軽にお目通しください。

■メールマガジンの配信は、[コチラ](#)の申し込みフォームからお申込みください。

■Twitter：[https://twitter.com/ShuriNet\\_Ryukyu](https://twitter.com/ShuriNet_Ryukyu)

■Facebook：<https://www.facebook.com/ShuriNet.Ryukyu>

(資料)

## 首里城関連歴史年表

何年前	西暦	出来事
647年前	1372年	中山王察度(ちゅうざんおうさつと)、初めて明に使者を送る。
613年前	1406年	尚思紹(しょうししょう:尚巴志の父)中山王(ちゅうざんおう)になる。
592年前	1427年	龍潭(りゅうたん)を掘り、庭園を整備した。
590年前	1429年	尚巴志、三山を統一→「 <b>琉球王国</b> 」が <b>成立</b> 。
566年前	1453年	「志魯(しろ)・布里(ふり)の乱」が起こり <b>首里城全焼</b> 。①
410年前	1609年	<b>島津の琉球侵入</b> 。(薩摩藩が3000名の軍勢を持って琉球に侵攻し、首里城を占拠。それ以後270年間にわたり、琉球王国は表向きは中国の支配下にありながら、内実は薩摩と徳川幕府の従属国という微妙な国際関係の中で存続。)
359年前	1660年	<b>首里城焼失</b> 。②
347年前	1672年	首里城再建。
310年前	1709年	<b>首里城焼失</b> 。③
307年前	1712年	首里城再建、1715年に完了する。
166年前	1853年	ペリー提督来琉、首里城訪問。
147年前	1872年	<b>琉球藩設置</b> 。
140年前	1879年	首里城の明け渡し。 <b>琉球王国の崩壊</b> 。(明治維新により、成立した日本政府は1879年、軍隊を派遣し、首里城から国王を追放。首里城は日本軍の駐屯地、各種の学校等に <b>使われた</b> 。)
		<b>沖縄県誕生</b> 。
91年前	1925年	首里城正殿、 <b>国宝</b> に指定される。
91年前	1928年	国宝に指定された首里城正殿の昭和の大改修始まる。
74年前	1945年	<b>沖縄戦により首里城焼失</b> 。④ (戦後、跡地は琉球大学のキャンパスとなったが、大学移転後に復元事業。復元された首里城は18世紀以降をモデルとしている)
47年前	1972年	<b>沖縄県の日本本土復帰</b> 。
27年前	1992年	本土復帰20周年時、国営公園として復元
19年前	2000年	北殿にて「九州・沖縄サミット」社交夕食会開催。 首里城跡、園比屋武御嶽石門、玉陵が <b>世界遺産へ登録</b> (中国と日本の築城文化を融合した独特の建築様式や石組技術に文化的・歴史的な価値があるとされた)。
	2019年	<b>首里城消失</b> 。⑤

### 【首里城について】

・琉球王国(1429～1879年までの450年間にわたり存在した王制の国。中国、日本、東南アジアとの盛んな交易により、琉球独自の文化が育まれた)の政治・外交・文化の中心として栄華を誇った。  
・小高い丘にある、曲線を描く城壁で囲まれ、その中に多くの施設が建てられる。いくつもの広場、宗教上の聖地も存在するという特徴は、首里城のみならずグスクと呼ばれる沖縄の城に共通する特徴。

### 【首里城の果たしてきた機能】

- ・国王とその家族が居住するための首里城―「王宮」としての役割
- ・王国統治の行政機関―「首里王府」の本部としての役割
- ・王国祭祀を運営するネットワークの拠点としての役割
- ・周辺で芸能・音楽が演じられたり、美術・工芸の専門家が活躍―文化芸術の中心を担う役割

注)本資料は、首里城公園ウェブサイト(<http://oki-park.jp/shurijo/about/>) (2019年12月17日アクセス)の「沖縄の歴史」及び「首里城とは」の説明文を基に、本シンポジウムのために一部抜粋・改訂して記述・作成しました。